

変化する時代に応える市P連改革

PTAフェスティバルへの軌跡

鹿屋市PTA連絡協議会 会長 今村和也

●はじめに

鹿屋市PTA連絡協議会は、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の計41校PTAが所属し、会員数約12,500人で構成された団体です。

近年、社会構造の変化や家庭環境の多様化に伴い、PTA活動に対する保護者の関心や参加意欲に著しい変化が見られる中、本協議会が次世代につながる新しい取組を模索してきた過程を紹介します。

●改革のきっかけ

令和元年度、まだパンデミックなど想像もできなかった頃、本協議会では、従来の前年踏襲型の事業に対する参加者の減少が顕著になり、会員からは本協議会の必要性を疑問視する声も上がるようになっていました。この課題に向き合うため、単位PTAを対象にアンケート調査を実施。その結果、本協議会が「研修会等への動員を強制する上部組織」と捉えられており、さらに各学校のPTA事務局を担う先生方に多大な業務負担を強いっている

ことも浮き彫りになり、抜本的な改革の必要性が明確になりました。

しかし、改革をスタートさせようとした矢先にパンデミックが発生。従来の活動形式は一時停止を余儀なくされましたが、その一方で人と人の「つながり」の大切さが再認識され、PTAには保護者や教師をつなぐ場としての価値があり、本協議会の役割は単位PTA同士の交流を促進することだという理念が強まりました。

●新しい取組の誕生

令和2年度には鹿児島県PTA連合会の研究大会運営を担当する予定だったため、負担を軽減した新しい形の研究大会への改革を行っていたものの、パンデミックの影響で書面開催になってしまいました。先が見えない3年という長い年月を経て活動の再開が可能になってきた頃に、従来の「負担感」が指摘される研究大会などの活動に代わり、「楽しく、有益で、参加者が学びを持ち帰ることが出来る活動」を模索する中で、次のような目的を掲げて「PTA

フェスティバル」という企画が生まれました。
・PTA間のつながりを強化し情報交換の場を提供する。
・どのPTAにも平等に販売活動や活動資金確保の機会を提供する。
・地域の高等学校の魅力

を一同に紹介し、実際に所属する子供や保護者に接することで学校を知り、地元進学への関心を高める。
・会員の芸術活動発表の場を作る。
・楽しみながら自然に社会教育の学びを得られるようにする。

●さらなる展望

初開催の令和5年度は運営委員のアイデアと努力が実り、多くの来場者が訪れました。特に販売ブースや高等学校紹介ブースは来場者から高い評価を得、学びながら学ぶ姿が印象的でした。参加者や運営委員からは「楽しかった」「来年度も楽しみ」との声が寄せられ、事業後の振り返りの会も大盛況でした。

令和6年度は季節外れの台風により中止となりましたが、本年度は鹿屋市の「環境フェスタ」との協働により多数の

企業ブースを設置し、環境について体験し学べるようにするなど、内容をさらに充実させて開催予定です。

PTAフェスティバル

令和7年11月2日(土)

10:00~15:00

●未来へのビジョン

PTAフェスティバルは、本協議会改革のひとつですが、特定の事業継続に固執することなく、会員のニーズや社会の変化に対応しながら柔軟に進化を続けていく方針です。本協議会は、これからも子どもたちの健全な成長を支えるため、未来を見据えた活動を模索しながら、その役割を果たし続けていきます。



「お父さんの読み聞かせ」研修ブースの様子

高等学校の制服展示の様子(鹿屋高校のブース)